

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月13日

【四半期会計期間】 第118期第3四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 株式会社不二家

【英訳名】 Fujiya Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 櫻井 康文

【本店の所在の場所】 東京都文京区大塚二丁目15番6号

【電話番号】 (03)5978局8430番

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 千葉 かづや

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区大塚二丁目15番6号

【電話番号】 (03)5978局8430番

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 千葉 かづや

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第117期 第3四半期 連結累計期間	第118期 第3四半期 連結累計期間	第117期
会計期間		自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(百万円)	61,020	62,621	87,639
経常利益	(百万円)	291	768	1,816
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失()	(百万円)	234	371	544
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	201	522	590
純資産額	(百万円)	24,651	25,962	25,443
総資産額	(百万円)	48,572	50,917	53,034
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額 ()	(円)	0.91	1.44	2.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	50.6	50.5	47.7

回次		第117期 第3四半期 連結会計期間	第118期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	0.73	0.33

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第117期及び第118期第3四半期連結累計期間については潜在株式が存在しないため、第117期第3四半期連結累計期間については1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第117期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日～9月30日）のわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要やエコカー補助金などの政策効果もあり、緩やかに持ち直しているものの、長引く円高やデフレの影響、さらに、中国との外交問題などにより、依然として不透明な状況が続いております。当社グループが属する食品業界におきましても、企業間における低価格競争の激化、原材料価格の高止まりなどが収益を圧迫し、引き続き経営環境は厳しい状況で推移しました。

このような環境の中で、洋菓子事業におきましては、新規販路を確立すべくコンビニエンスストア向けの商品を積極的に開発、販売することにより、売上の拡大を図るとともに、上質で買い求めになりやすい1,000円シリーズ商品を引き続き、開発、販売しました。さらに、店舗開発において、新規出店を継続に行った結果、店舗数は前年同期に比べ増加しました。

製菓事業におきましては、「カントリーマアム」や「ルック」「ミルクィー」などの基幹ブランドの販売強化に努めるとともに、企業間コラボレーションへの取り組みやタレントを起用することにより、売上拡大を目指しました。

以上の結果、売上高は626億21百万円（前年同期比102.6%）となりました。

損益面では、低価格競争に対応したことにより販売促進費は増加しましたが、徹底したコスト削減と積極的な製品開発、営業活動を行った結果、生産性は向上し、収益は前年同期に比べ増加しました。特に、連結子会社2社（株式会社不二家フードサービス、株式会社ダロワイヨジャパン）を含む洋菓子事業の収益が改善した結果、営業利益は1億85百万円（前年同期に比べ4億41百万円の改善）、経常利益は7億68百万円（前年同期比263.8%）、四半期純利益は3億71百万円（前年同期に比べ6億6百万円の改善）となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第3四半期連結累計期間		前第3四半期連結累計期間		前年 同期比	増減
		平成24年1月1日から 平成24年9月30日まで		平成23年1月1日から 平成23年9月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
		百万円	%	百万円	%	%	百万円
洋菓子事業	洋菓子	14,823	23.6	14,413	23.6	102.8	409
	レストラン	5,076	8.1	4,960	8.2	102.3	115
	計	19,900	31.7	19,374	31.8	102.7	525
製菓事業	菓子	37,562	60.0	36,256	59.4	103.6	1,305
	飲料	4,109	6.6	4,571	7.5	89.9	461
	計	41,671	66.6	40,827	66.9	102.1	843
その他		1,049	1.7	817	1.3	128.3	231
合計		62,621	100.0	61,020	100.0	102.6	1,600

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、伸長しているコンビニエンスストアのスイーツ事業に対応した「レーズンサブレ」や「ふんわりペコちゃん」などの新製品を積極的に開発、販売したことが、売上増加に大きく貢献しました。また、消費者の低価格志向に対応すべく、お買い得感のある「999円セール(サンキューセール)」や「ペコちゃんのほっぺ」などをお得な価格で販売した「6個で500円セール」を展開するとともに、バレンタインデー、雛まつりなどの催事や、お盆、お彼岸のギフト需要獲得に取り組み、売上拡大を図りました。さらに、上質でお買い求めになりやすい1,000円シリーズ商品の拡販を目指し、タレントのローラさんを起用した販売促進を展開するとともに、「真夏のクリスマス?!」フェアなどのキャンペーンに取り組み、売上の増加に努めました。また、店舗開発につきましては、新たに鳥取市への出店やショッピングセンターなどへの出店を進めた結果、当第3四半期連結会計期間末店舗数は688店舗となりました。この結果、売上は前年同期比102.1%となりました。

高級洋菓子を取り扱うダロワイヨは、雛まつり、お彼岸、母の日といった日本文化を取り入れた催事に対応した商品を積極的に展開し、売上拡大を図りました。また、四角いシュークリーム「シューキュービック」や「ビスコット・オ・クロワッサン」など新製品開発を継続的に推進し、販売強化に努めました。さらに、郵政やブライダル向けのカatalogueに対応した商品提案を積極的に行い、売上は前年同期比104.0%となりました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、148億23百万円(前年同期比102.8%)となりました。

レストランにおきましては、ご家族の団らんのお場としてご利用いただいている「バースデーサービス」や「ケーキバイキング」に継続的に取り組むとともに、クーポンが付いた新聞折り込みチラシを配布するなどの営業施策を展開し、売上の拡大を図りました。また、海老フライを増量した「ハンバーグステーキ&手づけ海老フライのお得なセット」など、低価格競争に対応したスペシャルセットメニューを積極的に投入したことが奏功し、売上は着実に伸長しました。

この結果、レストランの売上高は、50億76百万円(前年同期比102.3%)となり、前年同期を上回る事ができました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、199億円（前年同期比102.7%）となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、継続して「カントリーマアム」、「ルック」及び「ミルキー」など基幹ブランド商品の販売強化に努めました。新製品では、「カントリーマアムプチ贅沢チョコレート」や「ルック純生クリームin」など、コンビニエンスストアや駅売店といった業態に対応した商品を開発、販売しました。また、「ルック発売50周年キャンペーン」と連動して、洋菓子部門や山崎製パン株式会社と共同で小売店の店頭での販売促進を展開し、ルックブランドの強化を図りました。さらに、タレントのローラさんを起用したミルキーブランド商品（「ミルキー袋」「ミルキーチョコレート」）を展開した結果、売上増加に結び付けました。この結果、売上は前年同期比102.4%となりました。

在外子会社である不二家（杭州）食品有限公司につきましては、販売エリアを発展著しい内陸部へ拡大したこともあり、主力商品である「ポップキャンディ」の売上がさらに好調に推移し、売上は前年同期比137.0%と大きく上回ることができました。また、さらなる売上拡大を目指し、8月に第2期工場を稼働させ、「ポップキャンディ」の商品供給体制の充実を図るとともに、中国においては新製品の「レモンスカッシュキャンディ」や「ソフトエクレア」を投入し、アイテムの拡大を図りました。

この結果、菓子の売上高は、375億62百万円（前年同期比103.6%）となり、前年同期を上回ることができました。

飲料におきましては、販売提携先拡大により「ネクターピーチ」の自動販売機の取扱い増加や、「ネクター（桃のかき氷）」などの企業間コラボレーションによる新製品開発に取り組むことにより売上の拡大を図りましたが、前年の東日本大震災特需の反動や紙容器飲料のカート缶の販売不振により売上は前年同期を下回りました。

この結果、飲料売上高は、41億9百万円（前年同期比89.9%）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、416億71百万円（前年同期比102.1%）となりました。

<その他>

株式会社不二家システムセンターの事務受託業務や、不動産事業のテナントからの賃貸収入に加えて、前期に新規事業部として立ち上げた通販・キャラクター事業部の売上増加が貢献したことにより、売上高は10億49百万円（前年同期比128.3%）と前年同期を大きく上回ることができました。

なお、中国においては反日デモや日本製品の不買運動などが、各地で発生してはありましたが、当社の在外子会社である不二家（杭州）食品有限公司につきましては、物的、人的被害も無く、業績に大きな影響はでておりません。しかしながら、今後の情勢によりましては、予断を許さない状況にあります。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は231億13百万円で、主に売掛債権の減により前連結会計年度末に比べ19億46百万円減少いたしました。固定資産は278億3百万円で、主に前払年金費用の減により、前連結会計年度末に比べ1億70百万円の減少となりました。

この結果、総資産は509億17百万円で、前連結会計年度末に比べ21億17百万円減少いたしました。

また、流動負債は171億10百万円で、主に仕入債務や未払金の減により前連結会計年度末に比べ19億11百万円減少いたしました。固定負債は78億44百万円で、主に社債や長期未払金の減により前連結会計年度末に比べ7億24百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計249億55百万円で、前連結会計年度末に比べ26億35百万円減少いたしました。

純資産は259億62百万円で、主に四半期純利益の計上により前連結会計年度末に比べ5億18百万円増加いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、248百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間におきまして、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はございません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数 (株)(平成24年11月13 日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	257,846,590	257,846,590	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	257,846,590	257,846,590		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年9月30日		257,846,590		18,280		3,859

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 67,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 25,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 257,513,000	257,513	同上
単元未満株式	普通株式 241,590		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	257,846,590		
総株主の議決権		257,513	

(注) 1 「単元未満株式」欄には自己株式984株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数8個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社不二家	東京都文京区大塚二丁目 15番6号	67,000		67,000	0.03
(相互保有株式) 日本食材株式会社	埼玉県さいたま市中央区 本町西六丁目4番22号	25,000		25,000	0.01
計		92,000		92,000	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,331	9,107
受取手形及び売掛金	2 12,280	2 8,450
商品及び製品	3,068	3,126
仕掛品	291	354
原材料及び貯蔵品	1,797	1,800
繰延税金資産	31	43
その他	618	560
貸倒引当金	359	329
流動資産合計	25,060	23,113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,595	6,558
機械装置及び運搬具（純額）	6,246	6,313
土地	2,847	2,847
リース資産（純額）	1,586	1,425
その他（純額）	637	669
有形固定資産合計	17,913	17,814
無形固定資産		
のれん	-	4
その他	320	275
無形固定資産合計	320	280
投資その他の資産		
投資有価証券	6,031	6,263
繰延税金資産	48	48
敷金及び保証金	2,222	2,188
前払年金費用	1,117	802
その他	535	631
貸倒引当金	213	226
投資その他の資産合計	9,740	9,708
固定資産合計	27,974	27,803
資産合計	53,034	50,917

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,296	5,130
短期借入金	4,404	4,627
1年内償還予定の社債	354	354
リース債務	396	408
未払金	4,666	3,490
未払法人税等	286	163
賞与引当金	254	598
店舗閉鎖損失引当金	12	12
その他	2,349	2,324
流動負債合計	19,022	17,110
固定負債		
社債	1,333	1,084
長期借入金	2,277	2,588
リース債務	1,339	1,156
退職給付引当金	1,485	1,332
負ののれん	1	0
長期未払金	1,641	1,245
その他	489	435
固定負債合計	8,568	7,844
負債合計	27,590	24,955
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	5,070	4,065
利益剰余金	2,196	3,572
自己株式	14	14
株主資本合計	25,531	25,903
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	178	172
繰延ヘッジ損益	4	4
為替換算調整勘定	34	27
その他の包括利益累計額合計	217	205
少数株主持分	129	264
純資産合計	25,443	25,962
負債純資産合計	53,034	50,917

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	61,020	62,621
売上原価	33,350	33,486
売上総利益	27,669	29,134
販売費及び一般管理費	27,925	28,948
営業利益又は営業損失()	256	185
営業外収益		
受取利息	14	12
受取配当金	37	24
持分法による投資利益	519	539
その他	111	139
営業外収益合計	682	716
営業外費用		
支払利息	92	88
その他	42	44
営業外費用合計	134	132
経常利益	291	768
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	6	-
保険差益	-	88
その他	0	0
特別利益合計	7	89
特別損失		
固定資産廃棄損	46	131
貸倒引当金繰入額	6	-
災害損失	169	-
その他	7	1
特別損失合計	230	132
税金等調整前四半期純利益	68	725
法人税、住民税及び事業税	266	229
法人税等調整額	24	12
法人税等合計	242	217
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	173	507
少数株主利益	61	136
四半期純利益又は四半期純損失()	234	371

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	173	507
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	1
為替換算調整勘定	12	8
持分法適用会社に対する持分相当額	5	4
その他の包括利益合計	27	14
四半期包括利益	201	522
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	259	384
少数株主に係る四半期包括利益	57	138

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 年12月31日)	(平成23)	当第3四半期連結会計期間 日)	(平成24年9月30
1 保証債務 連結会社以外の関係会社の金融機関の借入金に 対する保証 (株)ユトリア不二家 25百万円 計 25 取引先の営業債務に対する保証 (株)ジェフグルメカード 30百万円 計 30		1 保証債務 連結会社以外の関係会社の金融機関の借入金に 対する保証 (株)ユトリア不二家 19百万円 計 19 取引先の営業債務に対する保証 (株)ジェフグルメカード 30百万円 計 30	
2 期末日満期手形等の処理 期末日満期手形の会計処理は手形交換日をもっ て決済処理しております。 また、債権の一部については、手形と同様の期日 条件で現金決済する方式を用いております。 当連結会計年度は期末日が金融機関休業日のた め、期末日満期手形及び期末日債権の一部が 期末残高に含まれております。 その主なものは次のとおりであります。 受取手形 9百万円 売掛金 1,129 計 1,139		2 四半期連結会計期間末日満期手形等の処理 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は 手形交換日をもって決済処理しております。 また、債権の一部については、手形と同様の期日 条件で現金決済する方式を用いております。 当第3四半期連結会計期間末日が金融機関休業 日のため、四半期連結会計期間末日満期手形及び 期日債権の一部が当第3四半期連結会計期間末 高に含まれております。 その主なものは次のとおりであります。 受取手形 4百万円 売掛金 1,334 計 1,338	

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれん及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
減価償却費	2,435百万円	2,242百万円
のれんの償却額	0	0
負ののれんの償却額	0	0

(株主資本等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	19,374	40,827	60,202	817	61,020		61,020
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	463	463	503	967	967	
計	19,374	41,291	60,665	1,321	61,987	967	61,020
セグメント損益(は損失)	941	2,270	1,328	111	1,440	1,696	256

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。
- 2 セグメント損益(は損失)の調整額 1,696百万円には、固定資産減価償却費の調整額14百万円、その他の調整額12百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,723百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
- 3 セグメント損益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	19,900	41,671	61,571	1,049	62,621		62,621
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	465	465	483	949	949	
計	19,900	42,137	62,037	1,532	63,570	949	62,621
セグメント損益(は損失)	542	2,303	1,761	129	1,891	1,705	185

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。
- 2 セグメント損益(は損失)の調整額 1,705百万円には、固定資産減価償却費の調整額13百万円、その他の調整額 1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,717百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
- 3 セグメント損益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	0円91銭	1円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	234	371
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	234	371
普通株式の期中平均株式数(千株)	257,766	257,766

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第3四半期連結累計期間については潜在株式が存在しないため、前第3四半期連結累計期間については1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月13日

株式会社不二家
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川井克之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	薬袋政彦	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	島村哲	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社不二家の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社不二家及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。